

# 令和元年度小児がん診療に関する医療機関実態調査結果

## 1 調査概要

### (1) 調査目的

小児がん患者さんとそのご家族及び小児がん経験者の方が、可能な限り慣れ親しんだ地域で治療や支援、長期フォローアップが受けられる環境の整備を検討していくための基礎資料として、県内の医療体制の実態を把握する。

また、医療体制の実態を正確に把握するための定期的な情報の確認と更新として、調査を継続している。(※平成27年度に第1回調査、平成29年度に第2回調査を実施した。今回は3回目の調査となる。)

### (2) 調査対象

前回調査医療機関 30施設

今回調査医療機関 30施設(内1施設新規) 別添対象医療機関一覧

※下記のいずれかに該当する県内医療機関

- 日本小児科学会専門医研修施設
- 日本小児血液がん学会研修施設
- 千葉小児整形外科グループ施設
- TCCSG 参加施設(千葉県内)
- ちば医療なび/目的別検索/小児悪性腫瘍(小児がん) 該当医療機関

### (3) 調査期間

令和元年7月～8月

### (4) 調査方法

郵送により調査票を送付、郵送・メールにより回収

## 2 調査結果

【回答状況】 28施設 回答率93.3%

※ただし、結果公開不可の4施設と一部公開不可2施設の公開不可該当箇所については、下記の結果に含まない。

※各設問に対する公開数は下記のとおり。

	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10
公開数	9	8	8	24	7	7	23	9
非公開数	3	2	2	4	3	3	5	3

【問3 小児がん診療体制について】

- 28施設のうち、調査対象とした疾患について、1つでも診断、治療を行っていると回答した医療機関は9施設であった（別紙1）。残る医療機関については、「小児がん診療は行っていない」、「疑い患者は診察後、他院へ紹介している」との回答であった。
- 調査対象とした疾患以外で「その他」として挙げられた病名は、中枢神経外胚細胞腫瘍、ユーイング肉腫、滑膜肉腫、軟部腫瘍であった。
- 主たる診療科としては、小児科、小児外科、血液腫瘍科等であった。

【問4・5 療養環境及び患者・家族支援について】

- 診断及び治療を行っているとは回答した医療機関8施設の療養環境及び患者・家族支援状況の回答を一覧としてまとめた（別紙2）。
- 家族等の宿泊施設が活用できる医療機関は2施設であった。

【問6 地域との医療連携について】

- 専門的な治療を終えた患者の予防接種や風邪・けがといった時の診療について、自施設で何らかの診療が可能と回答した24施設のうち、予防接種の対応施設は22施設、風邪等の内科的症状の診療施設は21施設、けが等外科的治療の対応施設は18施設であった。その他歯科治療等は10施設が診療可能と回答している（別紙3）。

【問6 地域医療機関と連携した小児がん診療を行うために必要と思われるもの】

(最大3つまで回答可)



○最も多かったのは「医療機関(病院)の診療機能に関する情報公開」15件、次いで「医療機関の機能・役割の明確化」11件、「患者、家族への相談支援体制の確保、充実」、「小児がんの専門医や小児医療に携わる医師の確保」がそれぞれ10件であった。

【問7・8 千葉県の小児がん診療実績について】

○別紙4 各医療機関小児がん診療実績(平成29年1月1日～平成29年12月31日)

○別紙5 各医療機関小児がん診療実績(平成30年1月1日～平成30年12月31日)

※第1回調査では平成26年1月1日～平成26年12月31日の実績を把握し、第2回目調査で平成27年と平成28年の実績を把握した。

【問9 成人期の小児がん患者の診療体制、診療状況について】

○成人期の小児がん患者の診療状況は施設ごとに異なる(別紙6)。

【問10 妊孕性温存について】

○妊孕性温存に関する小児がん患者への情報提供について、5施設から「治療内容・予後に応じて話すか決定する」と回答があった(別紙7)。